NO.71
2022/10/3

バンコク便り

１．はじめに

タイ政府は 2 年半にわたって継続してきた新型コロナウイルス感染症に対する非常事態宣言を 9 月末で解除されました。これにより、陽性や濃厚接触者となった際の隔離やマスク着用義務の解除、タイ入国時のワクチン接種証明や陰性証明を提示する必要がなくなるなど、自由な渡航が可能となりました。日本では 10 月 11 日から外国人の個人旅行が解禁となることから、多くのタイ人の訪日が期待されます。

２．現地ビジネス情報（タイの航空機産業 Vol.4）

現在、アセアン地域ではタイだけではなく、シンガポールやマレーシアも航空機産業の発展を目指しています。今回はタイにとってライバルと言える存在の両国の現状についてレポートします。

シンガポールは、アセアン地域におけるトップランナーとして、現在では世界の MRO（Maintenance, Repair, Overhaul）の 10%を担い、政府が同産業の発展に力を入れ、欧米との合弁企業を立ち上げることで、OEM・Tier1（メーカーに直接納入する一次サプライヤー）の誘致に成功しています。加えて、アセアン他国からの輸入に頼っている部品を国内調達に切り替えるために国内メーカーの育成も行っています。

マレーシアは、アセアンで第 2 位の市場規模を誇っており、航空機産業における製造分野の拡大が続いており、航空機部品の輸出は、コロナ禍以前の 2019 年までは年平均 21%の伸び率を誇り、過去 5 年間で 2 倍以上の成長となっています。一方で、ローカルサプライヤーを含めた多くの航空機産業関連企業のほか、Tier2（Tier1 に素材や部品を供給する企業）層の日系企業が進出しているものの、Tier1 層が望むような一貫生産体制が整っている企業が少ないという課題から、日系企業とローカル企業の連合で体制を整えて、更なる需要の拡大を図ろうとしているところです。

タイはアセアンにおいて、シンガポール・マレーシアに次ぐ市場規模ですが、タイ航空とエアバスの合弁会社の設立が見送られたことや、コロナ禍で世界的に航空機産業が停滞した影響もあり、今後のタイ政府の舵取りが注目されています。他の 2 カ国より航空機産業関連企業が少なく、一貫生産体制が整っていない課題もあるため、メーカー同士で協力し合う体制を整えようとしています。現在、自動車部品製造の大手ローカル企業が航空機産業への進出を検討しており、そのローカル企業の保有する資源（資金・設備など）に日系企業が保有している航空機産業における技術・ノウハウを掛け合わせることで、双方にとってメリットと大きなチャンスが生まれようとしています。このような手法で、タイに拠点がない企業でも初期投資を極端に抑えながらタイ進出が可能となるため、今後、このような進出形態が増えることが期待されます。

３．現地トピックス（活気が戻りつつあるタイ！）

9 月下旬に出張でタイを訪れる機会があり、3 月末の半年前と比べると、非常に活気が戻ってきた印象を受けました。空港では入国審査待ちの長蛇の列ができ、街中でも多くの観光客とすれ違いました。道路の渋滞や BTS（高架鉄道）の混み具合などもコロナ禍前の懐かしい雰囲気に戻りつつあります。改装中だった旧バンコク伊勢丹の食品フロアには先月、「JAPAN AVENUE」がオープンし、日本食・お菓子の店舗やスーパーなどが並び、タイ人に日本を知ってもらえる新たなスポットとなりそうです。他にも新しい発見があるかと思いますので、リピーターはもちろん初めての方も、ぜひタイへ訪れてみてはいかがでしょうか。

入国審査待ちの行列

観光客が戻ってきたエラワン廟

JAPAN AVENUE 入り口

【本件に関する連絡先】　荘内銀行営業推進部　地方創生室　軽部・齋藤　023-626-9050